

令和2年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づく「実施事業」と「その他事業」の区分により、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

なお、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受け、当財団としても様々な感染防止対策を講じながら事業の実施に努めました。

令和 2 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の影響により 6 月 1 日まで休館としました。6 月 2 日より、感染防止対策を十分に行なったうえで開館しましたが、当初計画されていた企画展・特別展やワークショップなどの事業は中止としました。9 月 1 日からは、団体見学の受入れやワークショップを再開し、感染状況を考慮しながら博物館活動を実施しました。さらに、10 月 1 日から実施された GOTO トラベル地域共通クーポンの取り扱いを開始するなど入館者サービスの拡充を図りました。

なお、休館中は収蔵品の資料調査、写真撮影、データ入力などを集中的に行い、所蔵資料を今後の事業に活用できるよう努めました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯學習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めるとともに、時代復元衣装人形4軀（桃山時代男性1軀、江戸時代後期女性3軀）の着装を実施し展示替えしました。特に、展覧会等が中止になったこともあり、常設展示にいっそうの工夫を凝らし、7月～8月にかけての「天蚕飼育展示」や、エントランス円形ステージでの大規模な繭クラフト展示などを実施し、メディアにも取り上げられました。

イ 春の企画展（中止）

「描かれた養蚕－蚕織錦絵の世界－」

新型コロナウイルス感染症のため中止。

ウ 秋の特別展（中止）

「第26回全国染織作品展」

新型コロナウイルス感染症のため中止。

（2） 教育普及事業

緊急事態宣言の発出に伴い、4月1日（水）から8月31日（月）まで、および1月8日（金）から3月21日（日）まで団体の受け入れ、ワークショップ等は中止としました。

ア 「チャレンジ！かいこプログラム」

（ア） 蚕種配布

〔期 間〕 令和2年6月18日(木)～6月20日(土)

県内の小学校等を中心に、蚕の卵（蚕種）や人工飼料を有償頒布しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、申込期間・配布日を当初の予定より1か月遅らせての実施となりました。また、「かいこについての講座」は中止しましたが、飼育方法や観察の方等についてのマニュアルを配布するとともに、電話等で個別の相談に応じました。

（イ） 「かいこ教室」（中止）

新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から、「かいこ教室」は中止しましたが、7月～8月にかけて常設展示室にて天蚕の飼育展示を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのほか、生きた蚕を観察する勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和2年12月12日(土)～令和3年1月17日(日)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や幼稚園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

ぐみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演・講習会、スカーフ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 外部講師による講座

「かいことその仲間の生態・最新の研究について」

新型コロナウイルス感染症のため中止。

エ ギャラリートーク

[開催日] 令和2年10月3日(土)「生糸商標」について

学芸員による常設展示解説を実施しました。全3回の予定でしたが、2回は新型コロナウイルス感染症のため中止としました。

オ 博物館実習生の受入れ

新型コロナウイルス感染症の影響により今年度は受け入れは中止しましたが、11月、12月に博物館学の授業の一環としての団体見学を2校受け入れました。

(3) 連携事業

「シルキーウィンターフェスティバル」

[期 間] 令和2年12月12日(土)～令和3年1月17日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心

を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携し、「シルキークリスマス」（12月20日（日））等を実施しました。

（4）広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ツイッターの積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

（5）博物館月別入館者数（別紙）

2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県の地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、普及、販売促進活動等の支援に努めました。

（1）シルク等普及活動事業

ア 「シルキーウィンターフェスティバル」（再掲）

若い世代を中心に多くの方々に、シルクの魅力等について広く理解し関心を深めていただくことを目的として、令和2年12月12日（土）～令和3年1月17日（日）まで開催しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県の伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

（2）施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエイションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

博物館月別入館者数

区分 月別	日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
	個人	団体等	計	個人	団体等	計		
令和2年	4月 (0日)			0			0	0 1, 365
	5月 (0日)			0			0	0 3, 899
	6月 (25日)	476	15	491	14	0	14	505 280
	7月 (27日)	424	74	498	9	3	12	510 1, 577
	8月 (25日)	498	127	625	3	1	4	629 2, 102
	9月 (26日)	445	367	812	14	1	15	827 2, 060
	10月 (27日)	531	494	1, 025	9	0	9	1, 034 1, 834
	11月 (25日)	649	725	1, 374	1	0	1	1, 375 2, 187
	12月 (21日)	547	424	971	2	0	2	973 1, 636
	合計	4, 746	2, 596	7, 342	77	7	84	7, 426 18, 738
令和3年	1月 (24日)	250	19	269	3	0	3	272 1, 045
	2月 (23日)	285	38	323	2	1	3	326 721
	3月 (26日)	641	313	954	20	1	21	975 32
月平均	475	260	734	8	1	8	743	1, 562

() 開館日数

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館 令和2年4月1日～6月1日

II その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入居率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料金	374,936千円
諸料金	81,720千円
計	456,656千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長期寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

耐震補強工事（1階第6期A-東西工区工事）	61,600千円
P C B廃棄処理費用（第2回処理分）	11,236千円
整流基盤更新工事	5,060千円
海側部室（8～10階）エアコン点検小窓改修工事	3,905千円
中1階他シャッター整備工事	1,952千円
博物館系統電源盤改修工事	1,584千円
計	85,337千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24(株)に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫収入

車庫使用料金 9,310千円

(2) 平面駐車場収入

駐車場使用料金 23,668千円